

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 2

號二五三第・日廿月二十輯編局報情

# 眞實週報

## 時の立札 銃後の戦ひにも悔いを残すな 體當りだ

バレンバンに天降の大神兵が決戦のレ  
イナ島に再び出陣だ。禮重より重の奪  
獲のほかに機關銃を携へ、意氣軒坤と  
乗込も高千穂降下部隊勇士  
○基地 影影 金澤 渡辺 班員







# 決戦の秋

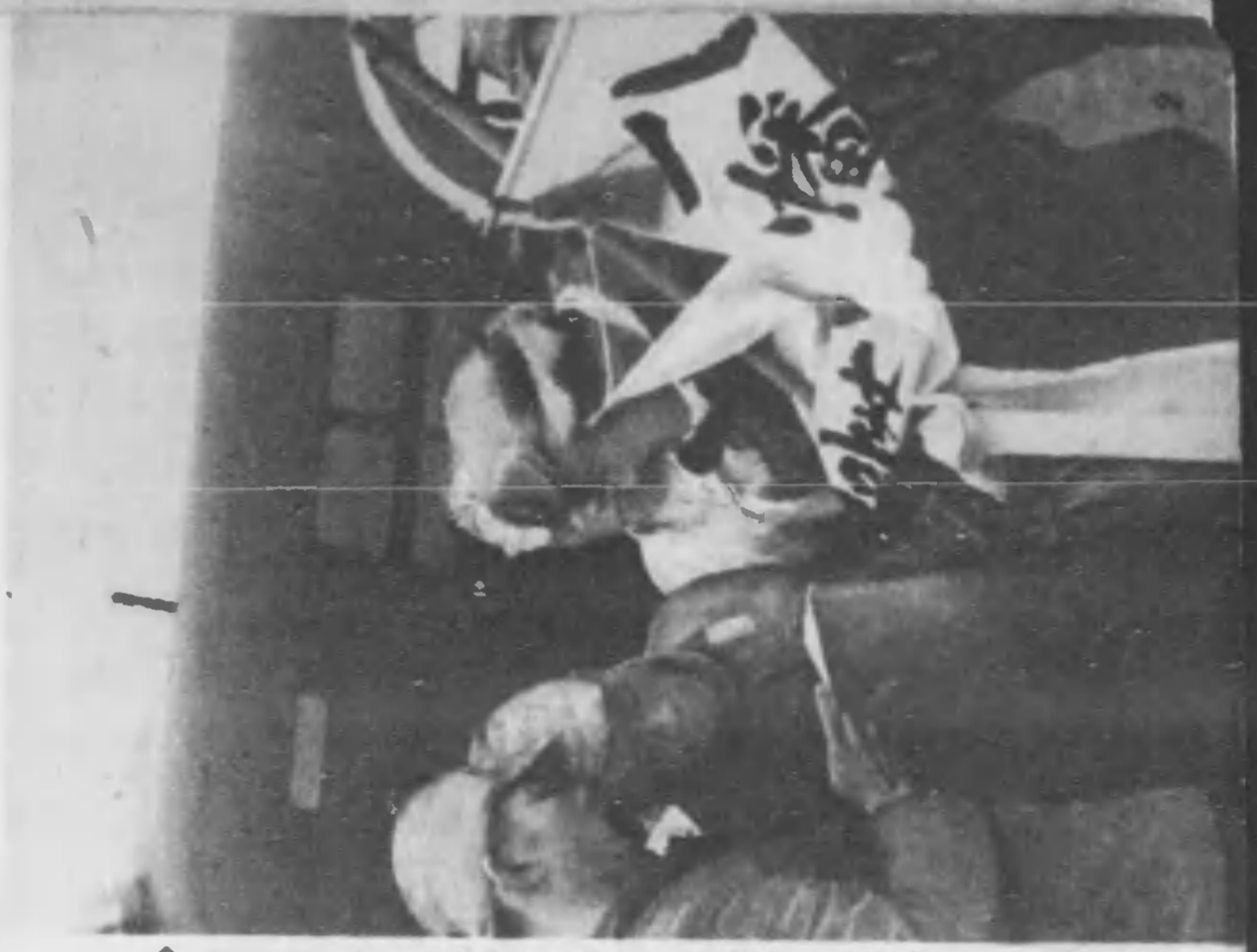
既にわが軍のために甚大な損害を蒙つたレイテ島の戦は、苦戦に陥つても、なほ強引の補給攻撃を続けてゐる。わが軍の補給輸送を阻害せんとするカモテス海の出撃や、ベイベイ及びアルブエラ附近の新上陸作戦等は、これら敵の旺盛な戦意の表れであつて、一瞬の油断もならない。

これに對し、わが軍は九連日の悪天候を伺いて出撃する陸海軍特別攻撃隊諸勇士を始め、航空部隊の猛攻等によつて、レイテ島内の敵艦船及び敵の飛行場等を破壊し、地上部隊の力に協同して相俟つて、逐次敵を駆逐してゐる。

殊に十二月六日夜、わが強力な「高千穂陸下部隊」は突如としてレイテ島の敵飛行場数ヶ所を襲撃し、或は落下傘降下により、ま

◁ 陸軍特別攻撃隊の足掻きを受け、敵艦隊中隊を全滅として、航空機は激戦を繰り出し、必死の空へ！  
 撮影 佐藤重直軍員

◁ キラリと光る銃口の真鍮もの響く、敵機轟轟とみに見送る高千穂隊の勇士たち  
 撮影 佐藤重直軍員



◁ 敵機を撃つるサイベン島基地に襲撃を加へて無事脱走し、襲撃を報告する八幡隊の勇士  
 撮影 小沼重直軍員

なは強行着陸によつて敵陣に殺到し、大なる戦果を収めつゝ敵と激戦中である。

この秋、わが神州本土も遂に戦雲の汚すところとなり、マリアナ諸島の基地を襲撃した敵は、十一月二十四日午後七時機をもつて帝都附近に襲撃したのを手始めとして、爾後数回に亘り、晝夜の別なくわが本土を襲ひ、高々度より百機を加へてゐる。

わが制空隊は特別攻撃隊「大制空隊」を

中心とし、來襲の敵機に随分攻撃を敢行してこれを撃滅し、敵の心算を寒からしめ、また陸海航空部隊は機先を制して、しばし長崎敵基地たるサイベン島を襲撃し、決死本土の守護に當つてゐる。

かくて此島の日本決戦と進行して、わが本土の空襲も日と共に激化を予想されるとき、われ等はいよいよ決戦生活に臨み、各職種に随分精神で奮闘しなければならぬ。



撮影で敵機襲撃を  
 説明しつつB29の  
 襲撃を告げる要天  
 制空隊員の勇気は  
 激しく送る人ばあ  
 りだ



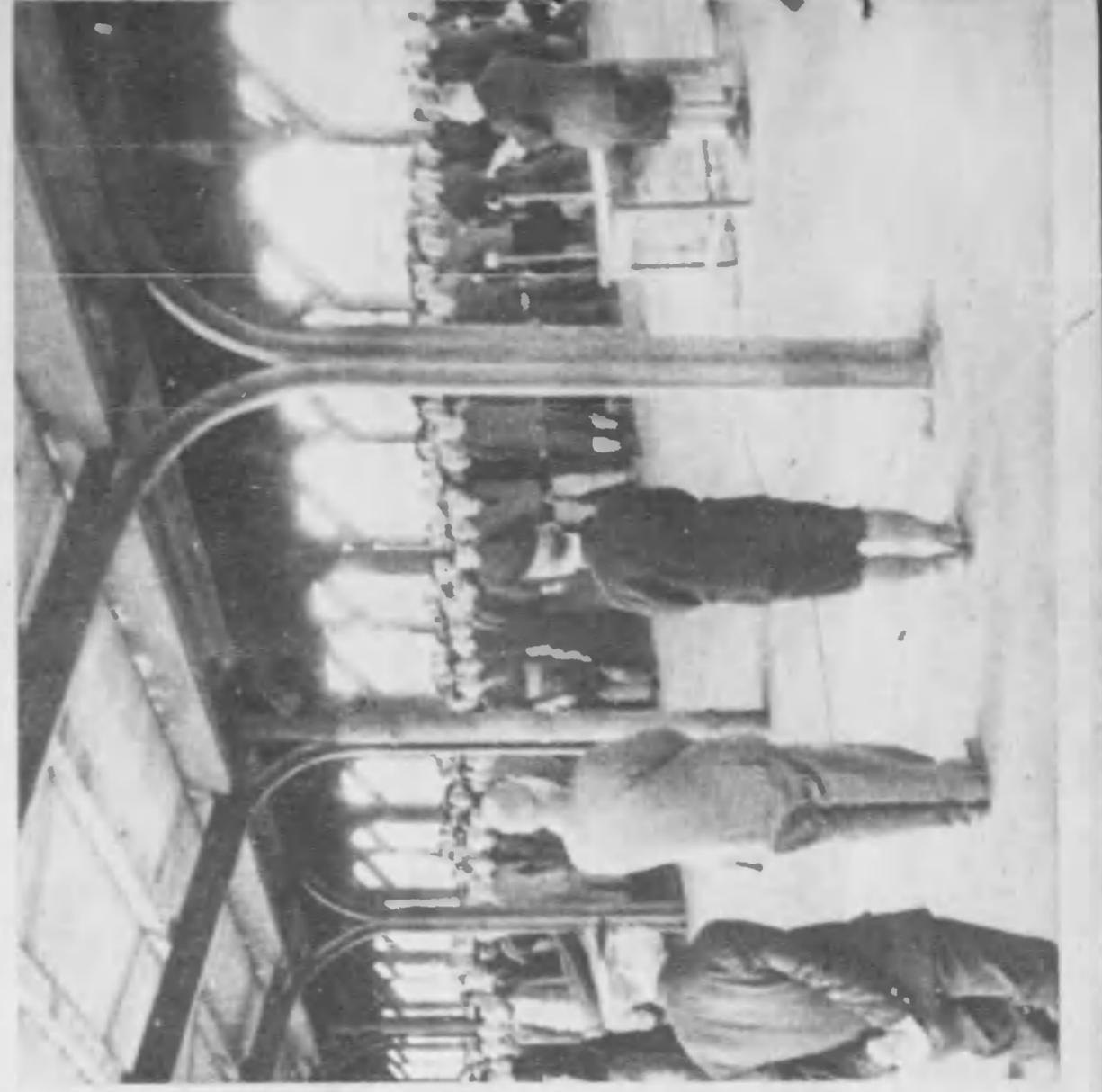


# 四度十二月 八日を迎ふ

防空服を身に固め、必勝を祈りに祈る民衆の群は、陸  
組としてあまを絶えない。四度十二月八日を迎へて――

十二月十一日、東京都の隅田川畔を舞めた六百名の人  
の波こそ、非難に燃起した荷役労働者であつた。神野大  
日本労働組合連合会長の激闘の跡に、船乗り要員を率つたこれ  
ら法被衆の労働組合は、神給の命ともいふべき荷役を背背  
負つてゐるのだ。自衛的に公休を要求し、夜間作業は頑  
張り、突撃隊を結成して余力があれば、他の野の労働一  
線にまで輩出してゐることの力闘が、レイアの組織精  
兵そのまゝの組織しきだ

四度迎へた十二月八日の仕事日、全国の航空兵器工場  
では、この日を飾るにふさはしい神風手拭投擲式が、一齊  
に行はれた。神風特別攻撃隊員が多数の集場に當り、航  
空機増産の「助」にもと、戦後に寄せた献金が患患の連と  
もる手拭となつて、戦後の生産に神風を捲き起すのだ。  
神風の生産に神風の日の丸、軍用航空機製造局局長官  
海軍中将の揮毫になる神風の二字も鮮かな手拭が、この日  
から航空機製造工場の細に「われら増産の神風ならん」と  
の決意を込め、神風特別攻撃隊に必ず続くの決意を――





# 勇ルウバラ せか活ニ後銃

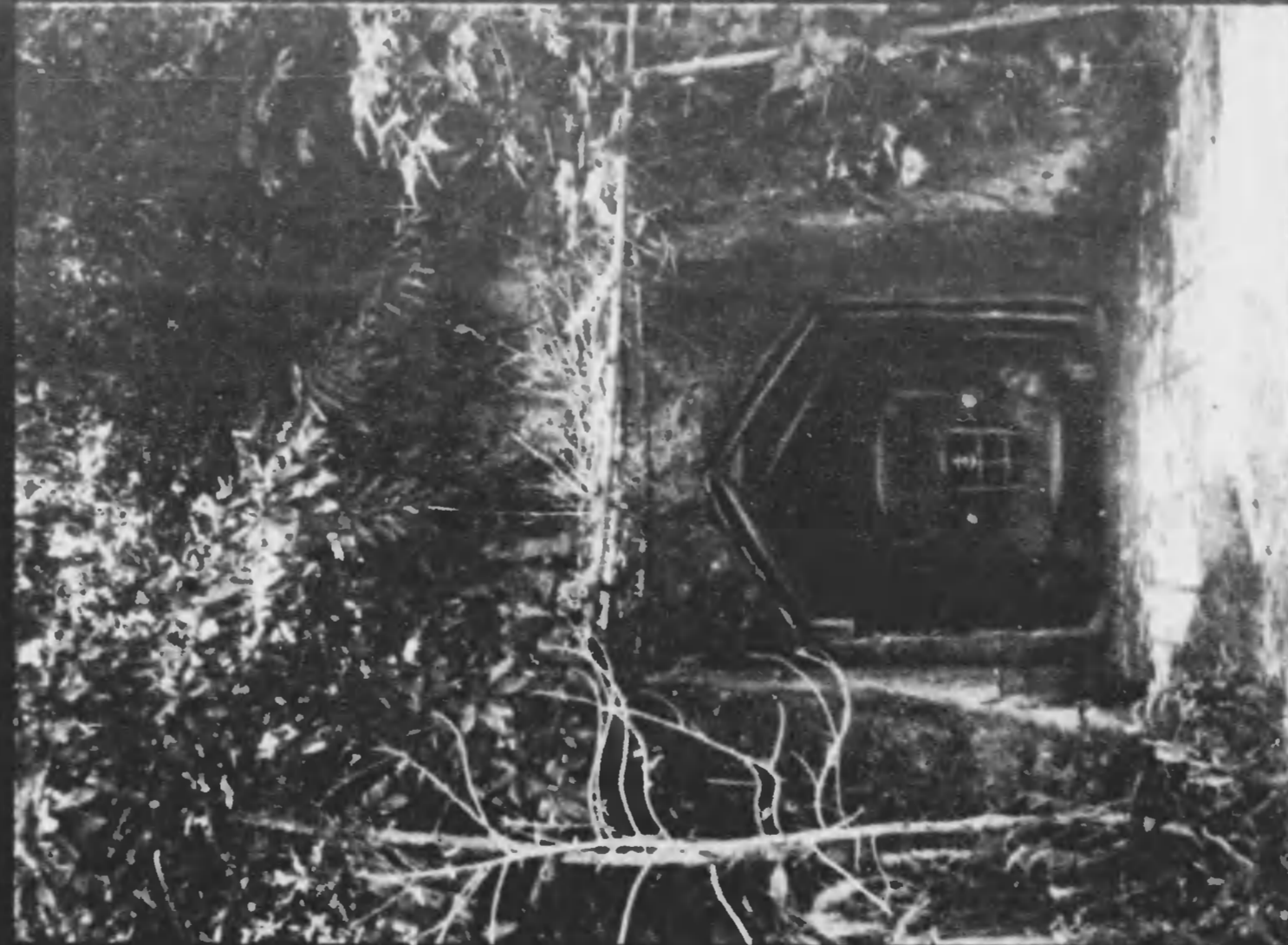
南洋



◆ 稀しいマツリノエに、熊の皮を縫って紋取巻がつけられ、子  
ニエは遠征に代用品の履き物で、手術はもつて  
洋一の地下野戦病院があつて、病者も負傷兵も心配はない



南海のラペウルでは、本年初め、刺殺者が敵の手に陥し、飛行場は  
もちろん、市街、物資集積所が破壊し、細みとする補給もまた断た



◆ 敵軍の侵入に、兵隊は、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、



◆ 敵軍の侵入に、兵隊は、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

◆ 敵軍の侵入に、兵隊は、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、



◆ 敵軍の侵入に、兵隊は、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、



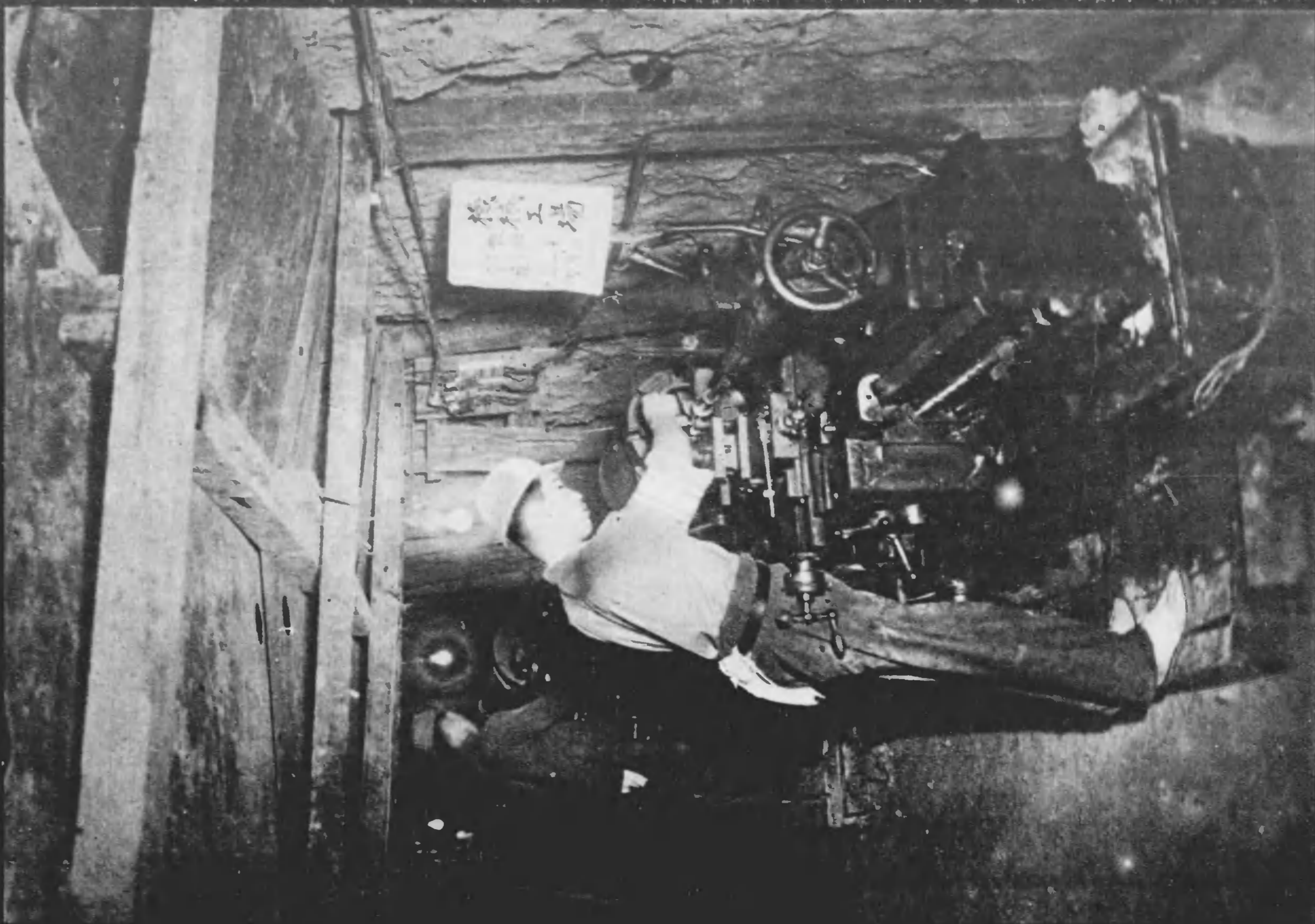
◆ 敵軍の侵入に、兵隊は、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、



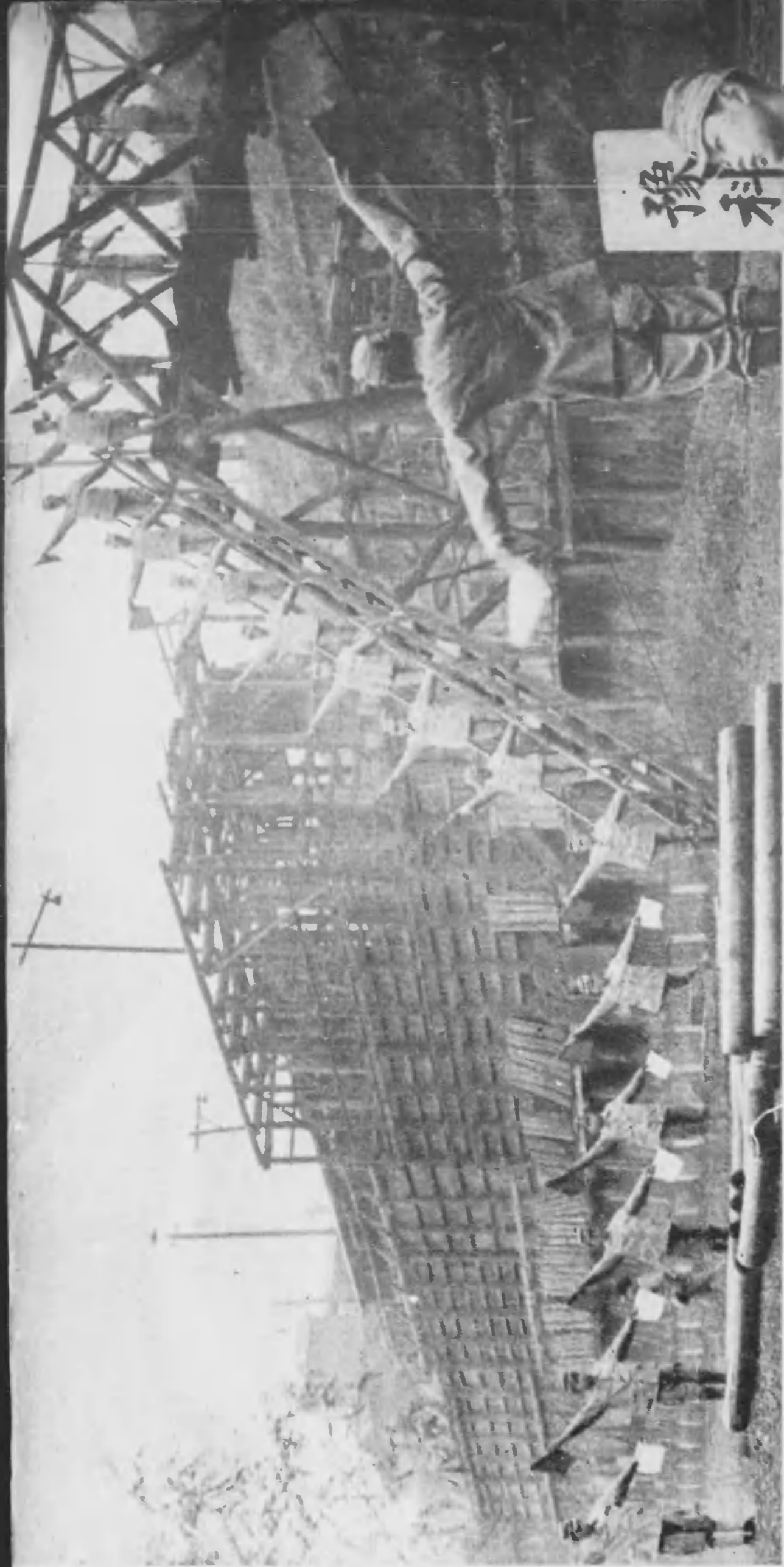
# 闘敢の士勇



雄鶏を以て闘敢は闘され、一人六十坪の  
 畑付もでき、米を主食としや、芋、ウタ  
 とよみで畑立のて食糧は困らない。  
 畑は稲で代へ、めいめいが鶏を三羽  
 飼つて、一日四の卵を食へられるやう  
 になるのも近い







# 豫科練習隊

常務炭礦 湯本礦

◻ 豫科の豫科練に形とつて炭礦の豫科練生も七つ組の訓練です

◻ 訓練のなり、トロの働き、増産競争の中に手紙、信箋、録音機等、豫科練魂の練成

神風特別攻撃隊の人たちは大い海軍飛行豫科練習生の出身で、必死必中の類なき精神もまた常に豫科練時代に鍛錬して得た賜ものでした。七つ組の制服に豫科練の名もそのままに職場の基礎訓練を受けてゐる少年たちがあります。常務炭礦の豫科練習隊がそれです。常務炭礦の湯本礦では、炭礦経営の國民学校高等科を卒業すると、一人残らずこの豫科練習隊に入隊して、兵舎と呼ばれる合宿所に入ります。何から何まで軍隊的な訓練を受けながら、炭礦戦士としての勉強をします。

何しろ今年の三月にできたばかりで、まだ豫科一期生が百名ほどに過ぎませんが、三年経てば練習生も千名以上になるといひます。「豫科練の名を取つかしめるな」元氣一杯、毎日力のかぎり訓練してゐる隊員は、戦争に勝つための石炭を、いまに僕らの手で信も掘つてみせるぞと張り切つてゐます。

◻ 炭礦技術者としての訓練はまづ学課から、炭運に用ひる種の種類勉強



# ぞる掘でい当体 練科予象の山鉦し母頼

◻ 更に實地訓練、選炭場、コンベアの稼働教育



◻ 坑内へ一隊官の注意を向け、若入らしい張り切つた気持で下る



◻ ひとくする地帯に多量な汗を流しつつ、炭礦の第一級切羽の掘削員にあらる豫科練生





# 畠にも冬の手入れ 麦と野菜を護りませう

もうすつかり冬です。寒さは日一日と加はり雪国では根雪も間近に迫り、関東地方では名物の霜柱が大地を待ちあげ始めました。畠の麦や野菜にとって寒さは何よりの強敵です。圃をあげて食糧増産に闘むとき、一粒の麦、一本の野菜でも無事に育てて、豊ふゆの確保につとめませう

## 麦の手入れ

播種も段々地方を除き、一段落となりまし。これからの麦の手入れは何といつても、寒さや雪から保護することが大切で

### 一、寒さに對する手入れ

イ 土入れ 初期土入れの要領は、畦畔や畦の土をよくこなし、麦の上から薄く平に均して振りこみます。関東地方などでは、北側や西側に、寒風を防ぐやうに土を寄せることが必要です。土入れの時期は、もちろん地方によつて異なりますが、だいたい木立三枚ぐらゐの頃に行ひます。土入れは除草と一貫にするのが習はしです。草が見えはじめたら、早速行ふやうに心掛けねばなりません。もう一つ、土入れと共に畦畔の中耕があります。これは土壌を軟らかにし、よくらみをつけ、通風をよくして、根の發育を促す効果があります

ロ 草刈り 関東地方のやうに霜柱の多い地方では、遅くとも霜柱をみては、刈草刈りつけをして、霜で凍るあがらぬやうに、細心の注意

を拂はねばなりません。草刈りは地上部の徒長(のびすぎ)を抑へ、根張りをよくして生育を丈夫にしますから、暖い地方でもぜひ實行したいものです。時期は霜柱の状況にもよりますが、やはり木立三枚頃から始めるのが適当です。特に暖冬の年や暖い地方は、草刈性の高い品種、或は早刈りしたものなどは、徒長をしたり、倒伏をみる恐れもありますので、草刈りを入念に行はねばなりません

### 二、雪害に對する手入れ

最近、品種の改良が進み、雪に強い品種も著及しましたが、雪害が多いか少ないかによつて、その地方の事件の成否が決定されるのですから、農具の準備や、深雪は、或は消雪用機土の採取など、必要な手當を必ず行ひませう

### イ 覆土の準備

これは雪害防止の要領を防ぐために行ふのであつて、寒風をよくかけるのは勿論のこと、麦の根際にも十分覆土することが必要です。農具は四斗—六斗式ボルドウ液か、割製州一號及び二號を、水一斗に十五匁の割合でよく溶かしたものを噴霧で散布します。散布の時期は、根雪の一、二週間前の一週、根雪直前に二週、併せて二回行ひます。散布の際、出来の軟かいものや、播種の時期を失したもので、或は耐雪性の十分でない品種については、特に入念に雪害を防止するやうに心掛けねばなりません

ロ 覆土の注意 根雪直前に草刈りをする

に接して、雪害防止の侵入を助長する結果となりまので、雪国地方では特に注意を要します

### 三、不整地帯に對する注意

今年も努力要請もあつて、不整地帯も廣く行はれておりますが、元肥の施用や、深雪は、或は消雪用機土の採取など、必要な手當を必ず行ひませう

## 野菜の防寒

関東地方では、十一月も半ばを過ぎると、結露期に入り、その後、四月上旬まではしばらく霜に見舞はれるので、寒さに強いものは、枯死してしまひ、寒さに弱いものでも、一、二月の低温にはかなり傷められます。また軽い土では霜柱が立つて一層傷みがひどく、海抜地帯のやうに年中凍を食ない圃を除いては、関東から關西にかけて、防寒期には野菜の生産が減少して、一、二月頃には全国を通じてほとんどの野菜が枯死いたします

従前はこの時分になると、近畿や小笠原諸島方面からの入荷や、また温室、暖房などで作られたものが出てましましたので、かなり補はれておりましたが、現在ではそれも出来なくなつてしまひました。そこで越冬野菜の中で貯蔵の多い大根、人参、牛蒡、黒芋のやうな根ものや、白菜、キャベツなどを育てておくか、または寒さに強い野菜を作ることがあつて来ます

しかし、いかに寒さに強いといつても、たゞ作つてそのままにしておいたのでは、やはり出来が悪いので、これに簡単な防寒の設備をしなければなりません。からして大根とか小根、葉菜、豆菜、小根菜、大根白菜等を作りますと、よく防寒にも堪へて育ちます

これは暖冬の休耕地の利用にも、また冬野菜の増産にも非常に有効な方法ですから、土地

や手の空いてゐる方は、ぜひ實行していただきたいことです

この野菜の防寒の仕方とは種々ありますが、関東でも出来る方法を二つ、次に説明します

### 一、草立

葉菜や豆菜や小根菜、小根などの畝のところに草のついた笹竹を立てて、ちやうど障子の中のやうな状態にして暖風と降雪



を防ぐ方法で、これは霜や風を防ぐばかりでなく、中の温度も幾分高まるので、生育もよほど速みます

草立の竹は、直径六分位のもの、一畝おに五十本位の割合で立てます。時期は十二月下旬、暖冬の来る前がよく、笹竹はあまり早く伐つておくと葉が落ちるので、だいたい十二月中旬頃伐るのがよいです。翌年はこの竹を携つ



て、風やトラウトなどの草竹に利用することが出来ます。もし竹が手に入らなかつたら、細い竹でも、木の枝でも、葉のついてゐるものなら何でも結構です。小さなものは本敷を増して立てれば支えありません。立て方は幾分南の方へ傾けて、なるべく日光を遮らぬやうにいたします

### 二、覆土

これは「覆土」といつて、東京都の葛飾、江戸川南側から千葉にかけて盛んに行はれてゐます。畦を東西に長くして、四尺五寸から五尺位の幅を作り、これに六尺位の木の板を、北側から片側だけ立て、角度は日射しによつて加減して、日光を十分受けられるやうに工夫します

覆土でなくとも、刈つたまゝの藁を並べてもよく、また玉ねぎや豆菜などの類のものでも結構で、たいやき竹や細丸太等で丈夫に作り、風に飛ばされぬやうにすることが肝要です

以上申し述べたやうな方法で冬野菜の防寒設備を作り、防寒期にも青々とした新鮮な野菜を豊富に食べられるやうに努めようではありませんか



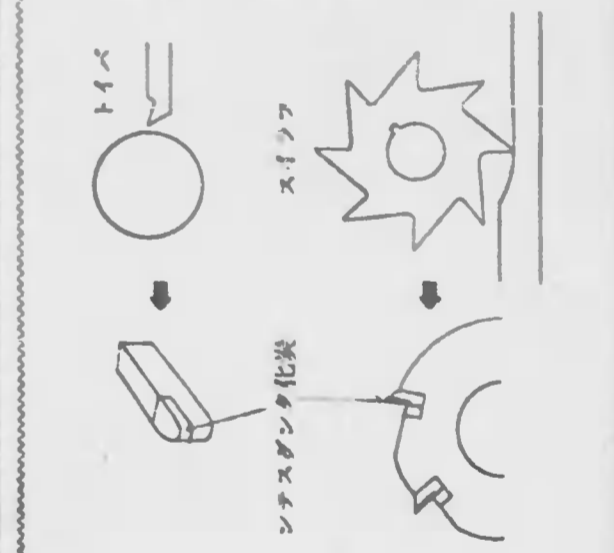
## 切削工具

農行機にしても、単純にしても、またどんな機械を造るにしても、切削工具を使はないものはありませんが、硬い金属などを思ふやうな形に切削できるのはなぜですか

これは削らうとするものよりも、硬い工具で削るからだといふことは、説明するまでもありませんが、近ごろでは削られたものがだんたん硬くなる上に、削り方も激しくなるので、削る工具はよほど硬くなければなりません

これまで、切削工具は何が使はれておたかといふと、鋼は鋼鋼鋼だけでした。ところがいろいろ合金が研究され、タンダステンを含んだ鋼と、早くしかも強力に切削できることが分り、高速度鋼として使はれるやうになりました。またダイヤモンドの非常に硬い性質を利用した工具もできましたが、これは早くしかも鋼のやうに仕上げることもできますが、値段が高くて中々手に入りませんから、ごく硬いものを削るときにしか使はれなかつたものでした

その後、高速度鋼にコバルト、バナジウム、モリブデン等の元素を含ませて性能はさらに良くなりましたが、硬化タンダステン工具が出現すると工具はくつと強くなりました



炭化タンダステンが非常に硬いものだといふことは前から知られておりましたが、硬いので實用にならなかつたのです。ところが、鋼の切削大機の際に、ドリルではダイヤモンドが足りなくなり、ダイヤモンド・ドリルに代つて、電機のごく細いタンダステン鋼を造るものを必死で探した結果、オスラム電機が炭化タンダステンとコバルトを結ばせることに成功しました。さらにタムラフ合資では、この高速度鋼の新金属を切削工具に使つてみたところ成績がよいので、ウイヂヤ(ダイヤモンドのやうなものといふ意味)と名付けて売り出しました。もちろん、我が國でも研究され改良されて切削工具ばかりでなく、いろいろ各方面にすでに使はれてゐます。ダイヤモンドに次ぐ硬さを持ちながらくつと強くできるこの超硬合金工具は立派に決戦に役立つてゐます



